



単元を貫く課題と「主体的に学習に取り組む態度」の評価—地理的分野を例に—

玉川大学教職大学院 教授、元全国中学校社会科教育研究会会長 高岡 麻美

1. 今、求められている社会科の力とは？

— 一般社会科の意義

……一般社会科としては、……次のような原則がその基準となっている。

(一) 学校内外の生徒の日常生活はつねに問題を解決して行く活動にほかならない。

(二) 学校は生徒にとって重要な問題を解決するために必要な経験を与えて、生徒の発達を助けてやらなくてはならない。

上記の文章は、「昭和22年(1947)学習指導要領社会編Ⅱ(第七学年～第十学年)(試案)第一章序論」からである。現行学習指導要領の社会科の目標の主旨と照らし合わせて、共通している点と違っている点は、どのようなところだろう。

共通点は、上記(一)で示している「課題解決学習」であろう。現行学習指導要領解説には、「三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる」とあり、「課題を追究したり解決したりする活動を通して」は、目標の最初に示されている。社会科が生まれた70年以上前から、「課題解決学習」は、社会科の目標を達成するには、欠かせない学び方であることがわかる。

一方、相違点は何だろうか。「社会的な見方・考え方」「多面的・多角的」「社会参画」等いくつか挙げられるであろう。なかでも「主体的」という文言は、どうだろうか。「主体的・対話的で深い学び」「主体的に学習に取り組む態度」等、現行学習指導要領では、「主体的」という言葉がかなり強調されている。

なぜ「主体的」が求められているのか。それは、^{フーカ}VUCA*といわれる予測不能な時代において、生涯にわたって学び続け、他者と協働しな

*Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の四つの頭文字をとった予測が困難な状態を意味する言葉。

がら正解のない問題に対応していく力が何より求められるからであろう。

それでは、「自主的」と「主体的」の違いは何だろうか。「自主的」とは、やるべきことが決まっているものを他の干渉がなくても、みずから進んで行くことであり、「主体的」とは、やるべきことは決まっていないが、他から強制されるのではなく、状況に応じてみずからの意思で行うことであると考えられる。「みずからの意思」で行うためには、生徒が学習課題を把握し、その解決に向けて見通しをもち、そして振り返りをしていくことが必要である。つまり、予測不能な時代において、「課題解決学習」を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成していくことが、極めて重要である。

2. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価と課題解決学習

新しい評価の観点が始まってから、2年がたち、現場の先生方のご尽力により、さまざまな実践例が積みあがってきている。特に「主体的に学習に取り組む態度」については、最初はとまどいも多かったが、「課題解決学習」の学習過程に沿って、評価されることが重要であることが認識されている。

中教審別添資料3-6*「社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ」に基づき、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面を以下で考えていく。まず「動機付け」の場面では、「見通し」をもたせることが重要である。「単元を貫く課題」に対して、「予想(仮説)」させる。そして、単元を通して、「問い」を追究し、最後に「予想に対してどうだったか」という「振り返り(検証)」をさせる。こうし



図1 『社会科 中学生の地理』 p.190 中国・四国地方

た学習過程をとらずして、「主体的に学習に取り組む態度」の評価はできない。また、その評価場面は、1単位時間で評価されるものではなく、単元、または内容のまとまりを通して行うことが肝要である。

この際、重要なのが、「単元を貫く課題」の設定である。単元を貫く課題は、『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）の「章（節）の問い」を活用するとよい。教科書の誌面構成は、図1のとおりであるから、うまく活用されたい。

また、単元を貫く課題を生徒の実態にあわせたい場合は、「○○なのに△△なのは、なぜだろう」のような生徒の知的好奇心を刺激する問いも考えられる。「こうかな？」という「予想」から、「難しい」と感じながらも「粘り強く」学び、「あっ！（気付き）」「あ～（納得）」と学びが「調整」され、「わかった！（理解）」「これはどうなんだろう（新たな課題の発見）」というように学習者の視点に立った単元指導計画を工夫していくことが大切である。

また、柔軟な単元指導計画も重要である。教科書の順番に沿って世界の諸地域や日本の諸地域を指導するのではなく、地域の実態に応じて年間指導計画を立て、「主体的に学習に取り組む態度」の評価も、「内容のまとまり」で行うことができるよう工夫することが考えられる。図2は、東京都中学校社会科教育研究会が提案した年間指導計画の例である。例えば、「アフリカ州」と「南アメリカ州」を「内容のまとまり」と考え、そこで「主体的に学習に取り組む態度」の評価をするのも一つの方法であろう。

世界の諸地域	日本の諸地域
① 北アメリカ州	① 北海道地方 九州地方
② アフリカ州 南アメリカ州	中部地方 ② 近畿地方 中国・四国地方
③ オセアニア州 ヨーロッパ州	東北地方 ③ 地域調査の手法 関東地方 地域の在り方
④ アジア州	

図2 東京都中学校社会科教育研究会が提案した年間指導計画の例（令和3年度全国中学校社会科教育研究大会東京大会）

※主題や中核となる事象の系統性等から「内容のまとまり」や順番を考えている。また自分の住んでいる地域に結び付けられるよう「アジア州」「関東地方」を最後に位置づけている。

3. 地図帳の活用

「単元を貫く課題」の設定が、「主体的に学習に取り組む態度」の評価と一体であることは承知のとおりであるが、ではどのように「単元を貫く課題」を設定したらよいのだろうか。

単元の導入は、生徒の興味・関心を高める資料の提示が考えられるが、それだけでは「課題解決学習」にはならない。そこで、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）の資料をうまく活用してはどうだろうか。

例えば、教科書における「ヨーロッパ州」の節の問いは、「ヨーロッパ州では、国どうしの結び付きが強まることによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか」である。「国どうしの結び付き」と提示されても、単元の最初の頃の生徒の知識では、予想を立てるのは難しい。そこで、地図帳p.49～50の鳥瞰図〔①ヨーロッパ州をながめてみよう〕を見させる。ここでは、ヨーロッパ州が一つの国のように見渡せ、現在ロシアによる侵攻を受けているウクライナが、ロシアと陸続きであり、黒海、ひいては地中海に続いている国であることも一目でわかる。このように地図帳の資料を活用して、予想させ、単元の最後にもう一度この地図を見させて、振り返りをさせることが考えられる。

また、東北地方の節の問いは、「東北地方における人々の生活や文化に、自然環境や交通網の整備はどのような影響を与えているのだろうか」である。地図帳p.131「⑥伝統・文化」で東北地方の文化について大観させたのち、「①自然」「②降水量」「③人口分布」「④農業」「⑤

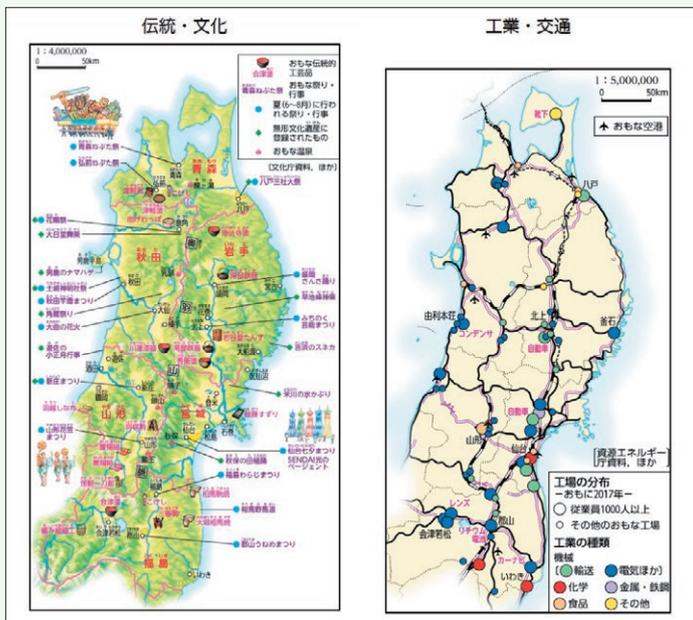


図3 『中学校社会科地図』デジタル教科書p.131
 ⑥伝統・文化 ⑤工業・交通 の比較 (一部加工)

工業・交通」のうち、「影響を与えたものはどれか」を選ばせ、仮説を立てさせる。デジタル教科書であれば、2つの主題図の比較もその場で提示可能である(図3)。主題図を比較することで、「伝統文化」という諸事象について地理的な見方・考え方を働かせ、位置や空間的な広がりに着目してとらえ、考えさせることができる。予想される生徒の仮説で一番少ないのは、「⑤工業・交通」であろう。はたしてその仮説が正しいのか、教科書等の資料(教材)を活用して、課題を追究し、毎授業の終わりに、仮説の検証の振り返りをさせる。その際、多面的に考えさせるために、「過去」「現在」「未来」という時間軸の視点を取り入れ振り返りをさせるのも、1つの方法である。そして単元の最後に「持続可能な伝統文化の継承の課題と今後の取り組み」について考えさせる。このことは公民的分野の「A(1)私たちが生きる現代社会と文化の特色」に引き継ぎ、「自分たちはどのように文化と関わっていけばよいのか」という社会参画の意識を高める手立ても考えられよう。

4. 評価方法の工夫: 「振り返りシート」の活用

単元または内容のまとまりを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価場面とすると、評価方法はどのような方法が考えられるであろうか。

現在、現場の多くの先生方が活用しているのが、「振り返りシート」であろう。図4は、東京

都世田谷区立弦巻中学校の石田圭教諭の実践を基に作成した「振り返りシート」である。現在、1人1台端末が配布されているため、このようなシートへの書き込みをタブレット上で行うケースも多く見られる。作業の効率化が図られるほか、生徒自身も、年間を通して、いつでも振り返りができる等の利点が報告されている。

その際、重要なのが、「教師のアドバイス」である。毎時間振り返りをさせるだけでは、学びは「調整」されない。しかし、毎時間生徒へコメントを返すのは、働き方改革に逆行するだろうし、時間的にも不可能であろう。工夫する点としては、①タブレット端末を活用するなどして、初めに提示した評価基準に沿っていくつかのテンプレートを準備してアドバイスをする、②1単位時間ごとにアドバイスする人数をあらかじめ決め、単元終了までに全員にアドバイスする等が考えられる。または、アンダーラインを引くだけでもよいだろう。持続可能な評価方法の工夫が望まれる。

また、単元のまとめについて、文章で書くのが苦手な生徒もいるであろう。単元によっては、地図や表・図でまとめる方法もありうる。教科書の「章(節)の学習を振り返ろう」には、さまざまなまとめ方が提示されているので、うまく活用されたい。

〈参考文献〉

※中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』別添資料3-6

【中部地方】単元学習シート

単元全体の学習課題: 中部地方がさらに発展していくためにどの産業に一番力を入れたらいいか?
 ①東海の工業 ②東海の農業 ③中央高地の農業 ④中央高地の工業 ⑤北陸の農業 ⑥北陸の工業

1 学習を始める前に、自分の予想を立ててみよう(なぜそう思ったのかも書こう)

2 毎時間の振り返りを記入しよう

	単元を費く課題を考えるうえ で参考になりそうなこと	わかったこと、疑問や興味をもったこと、難しかったこと等	最初の予想と ①同じ②修正が必要③違う	自己評価 A,B,C
1				
2				
3				
4				
5				

3 学習の振り返り

①単元全体の学習課題についての自分の答え

②最初に立てた予想と比べて、自分の考えはどのように変化したか。【①同じ ②修正が必要 ③違う】なぜなら

③この単元の学びを終えて、次の単元「近畿地方(環境保全)」でさらに追究したい学びは、何だろう。

図4 「中部地方」単元学習シート例